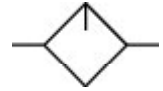


取扱説明書



ルブリケータ

型番号：BN - 23T5 - 8A、10A、15A

安全にお使い頂くために、ご使用前に必ずお読みください。

安全に使うための表示

使用、保守、点検、分解前に、次の表示や図記号の意味をよくご理解の上、ご使用ください。

表示

表示の意味



危険

「取扱を誤った場合に人が死亡する、または重傷を負う可能性があること」を示します。



注意

「取扱を誤った場合に危険な状況が起こり、人が障害を負う可能性、または物的障害が発生する可能性があること」を示します。

図記号

図記号の意味



「特定の条件において破裂の可能性があります、注意を要すること」を示します。

安全上の注意事項



- ・使用圧力は、1.0 MPa以下で使用してください。
- ・使用温度は、5～60 の範囲を守ってください。
- ・取付場所は、直射日光や有機溶剤の雰囲気を避けてください。
- ・保守・点検する場合は、必ず圧力を抜いてから行ってください。
- ・潤滑油にはタービン油1種ISO-VG32相当品を使用してください。
他の油はパッキンを膨潤させ、故障の原因になります。
- ・部品を取り外して他の機器に使用したり、指定以外の部品は使用しないでください。

1. 構造

入口から流入した空気圧はフローガイド（ベンチュリー部）を通して流れる。この時ケース内の潤滑油面を加圧している空気圧とに差圧が生じ、潤滑油はサイホンチューブを通じて押し上がりインナードームから滴下され、空気の流れに乗せられ拡散し、下流側の空気圧機器に送られます。滴下量は、アウトードームを見ながらトップドームを回転させて調整します。

2. 使用・取付について



使用時の注意



- ・使用圧力は、1.0 MPa以下で使用してください。
- ・使用温度は、5～60 の範囲を守ってください。
- ・取付場所は、直射日光や有機溶剤の雰囲気 avoiding してください。
- ・ルブリケータの前にエアフィルタを設け、異物やドレンの混入を防止してください。

3. 仕様

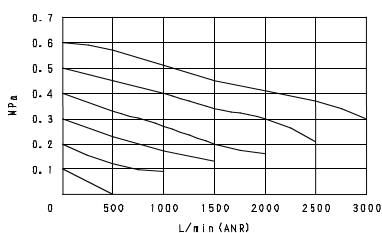
呼び口径	8 A	10 A	15 A
配管接続口	Rc 1 / 4	Rc 3 / 8	Rc 1 / 2
使用流体	空気		
使用圧力	1.0 MPa以下		
耐圧力	1.5 MPa		
周囲温度	5～60		
使用油	タービン油1種 ISO-VG32相当品		
貯油量	200 cm ³		
流量	1.2m ³ /min(ANR)	2.0m ³ /min(ANR)	2.1m ³ /min(ANR)
最少滴下流量	160 l/min(ANR)	180 l/min(ANR)	200 l/min(ANR)
質量	0.55 kg		

流量は入口圧力0.7 MPa、差圧は0.03 MPaの時の流量です。

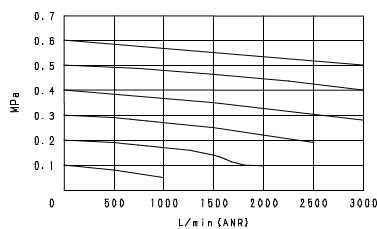
最少滴下流量は一次側圧力が0.5 MPaの時の流量です。

4. 流量特性

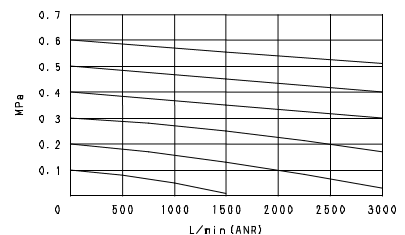
8 A



10 A



15 A



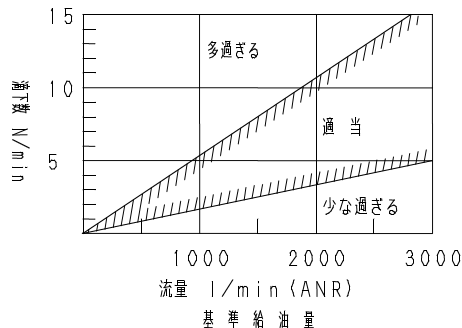
5. 取 付

- 5.1 取付方向は、ボディ部にある矢印の方向に空気が流れるようにしてください。
- 5.2 取付姿勢は、潤滑油が垂直に滴下するようにしてください。
取付位置は、潤滑油を必要とする機器の近くにしてください。
- 5.3 機器の配管前には、配管材内部を十分にフラッシングを行って、異物やシールテープ破片などが入らないようにしてください。
- 5.4 保守点検が行えるように、周囲に余裕空間を設けてください。

6. 給油調節と滴下量

空気圧回路や制御装置への給油量は、一般的には 10 m^3 に対して 1 cm^3 を基準としています。アクチュエータや方向制御弁などに給油する場合の滴下量は方向制御弁の排気から排出される空気に僅かに油が混ざっている程度の量に調整を行う必要があります。

給油調整は空気は流れている時に行い、トップドームを回転し滴下量を調整します。左に回せば滴下量は多くなり、右に回せば少なくなります。設定後の滴下量はほぼ空気流量に比例し、空気流量が増加すれば滴下量は多くなり、空気流量が減少すれば滴下量も減少します。



7. 潤滑油補給

潤滑油の補給は、加圧中でも行うことができ、フィードプラグを外すと、バルブ（チェックバルブ）が作動してケース内は大気圧と等しくなり、フィードプラグ口から給油できます。油量は検油窓で確認し、銘板のMAX OILの位置まで補給してください。

補給後は、フィードプラグを元通りに閉じると、空気圧は徐々にオイルケース内に入り、再び滴下を開始します。

* 潤滑油には、必ず、タービン油一種（ISO-VG32相当）を用いてください。スピンドル油やマシン油は下流側機器のパッキンを膨潤させ、故障原因となります。

8 . 保守点検



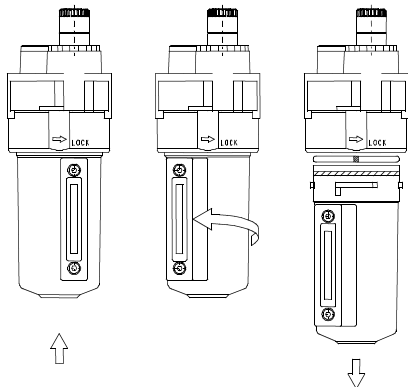
保守点検時の注意



- ・分解する時は、必ず機器と配管内の圧力を抜いてから行ってください。
圧力が残っていると勢いよく漏れ出し、部品が飛び出す危険があります
- ・ケース組立時は、LOCK (右) の方向へ止まるまで回転してください。
途中で止めたままにしておくと、ケースが外れて危険です。

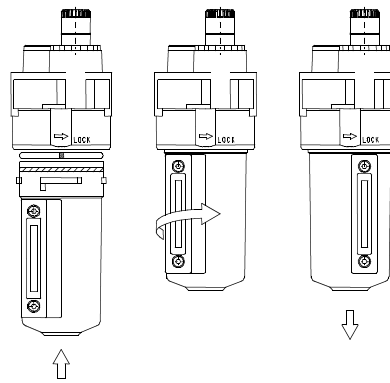
ケース分解

ケースを押し上げながら、左方向
へ30°回転させて引き抜きます。



ケース組立

ケースを押しながら、LOCK (右)
方向へ止まるまで回転させてから、
下げます。



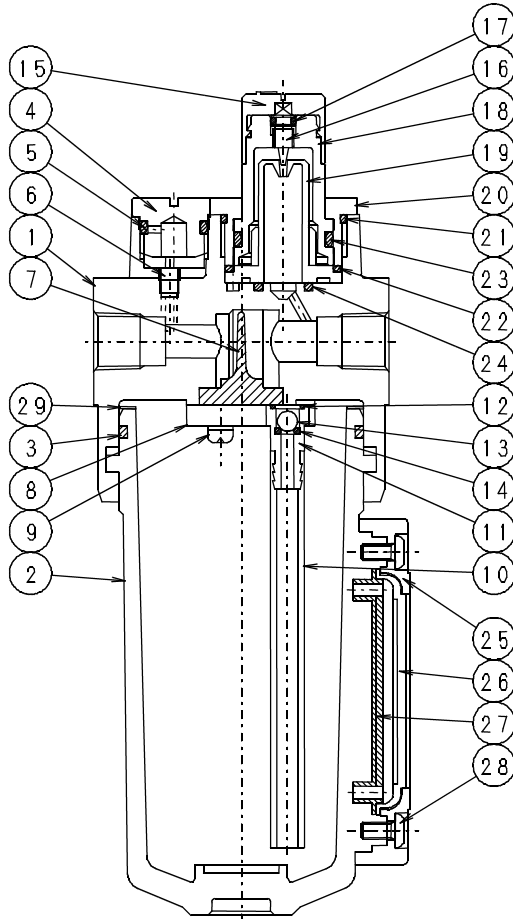
9 . 部品洗浄

中性洗剤を使用し、清掃・洗浄してください。

10. トラブル対策



1 1 . 部品名称



1	ホ`テ`イ
2	ケ-ス
3	ケ-スカ`スケツト
4	フイ`ト`フ`ラグ`
5	フイ`ト`フ`ラグ`ガ`スケツト
6	ハ`ルブ`
7	フ`ロ`ガ`イ`ト`
8	フ`ロ`ガ`イ`ト`プ`レ-ト
9	プ`レ-ト`ピ`ス
10	サイフ`オン`チュ-ブ`
11	チュ-ブ`ジ`ョイ`ト`
12	ジ`ョイ`ト`ガ`スケツト
13	チエ`ック`ハ`ルブ`
14	チエ`ック`ハ`ルブ`ハ`ッキ`ン
15	ト`ッ`プ`ト`-ム
16	ニ-`ト`ル`ハ`ルブ`
17	ニ-`ト`ル`ハ`ルブ`ハ`ッキ`ン
18	ア`ウ`タ-`ト`-ム
19	イ`ン`ナ-`ト`-ム
20	ト`-ム`ホル`タ`
21	#1ト`-ム`ホル`タ`ガ`スケツト
22	#2ト`-ム`ホル`タ`ガ`スケツト
23	ア`ウ`タ-`ト`-ム`ガ`スケツト
24	イ`ン`ナ-`ト`-ム`ガ`スケツト
25	検`油`窓`押`エ
26	検`油`窓
27	検`油`窓`ガ`スケツト
28	六`角`穴`付`ボ`タ`ン`ボ`ルト
29	ク`ラ`ン`プ`リ`ン`ク`ハ`ネ